

テーマ 中間総括～今現在、目指す学校像に向けた取組について

※目指す学校像：誰もが通いたい学校、働きたい学校

チーム 小学校チームと中学校チーム

時間：20分（実績30分）

【小学校チーム】委員間でのやりとり Q=質問 A=回答 O=意見

Q：学校説明資料にあるアウトリーチ型相談体制とは具体的に教えてほしい。

A：子どもたちからの相談を待っているのではなく、我々の方から悩んでいるところなどに働きかけをする相談にする体制にしたい、ということです。

Q：資料にあるキャリア教育の充実とは

A：キャリアパスポートを使って、子どもたちの将来への思いを書き留めていく活動をしている。これは全国的に展開されているもの。

その他、陸小まつりや運動会などを絡めた形で、自分自身の振り返りを積み重ねていって、キャリア教育を充実させて行きたい。

O：アンケートの結果からの話題になるが、自己肯定感についてはふだん子どもと接してきて、自分のできると思うことは学年によって差が大きいと感じている。自分が子どもたちに指導の際に気をつけているのは、子どもたちを精神的に傷つけないように接している。ほめることができるポイントをたくさん見つけることが大事かと思う。

Q：アンケート結果で「話し合いの時、自分の意見を積極的に発言している」「本当につらい時、先生に相談できる」が高学年で同じように低くなっているは関連があるのだろうか？

A：関連があると思う。子どもたちには恥ずかしさがあるのではないか。

子どもたちにはそうではないということを伝えていくのが大事。

また、最近自分の悩みをタブレットで訴えることもできるような仕組みがあると良いのではないかと考えている。

自己肯定感の点で行くと、子どもたちが自己肯定感を自ら持つのは難しい点がある。子ども同士が認め合わないで自己肯定感が育たないように思う。

Q：目指す学校像で働きやすい職場の回答が100%になっているが、昨年も100%だったのか？

A：昨年の調査は同じ項目がないので比べることは難しいが、概ね同じだと思う。来年は「働きやすい」に加え、「働き甲斐がある」を重点にしたいと考えている。また、これは先生からの提案だが、子どもたちの読書活動を推進するため、来年度アプリから電子書籍の読めるシステムの導入を考えたいと考えている。

【中学校チーム】委員間でのやりとり Q=質問 A=回答 O=意見

Q：アンケート結果の中で目指す学校像で点数をつけたところ。生徒は概ね通いたい学校で100点と回答しているが、教職員は0～50点が4名いる部分はどのように考えているか？

A：ここの部分の点数を上げるため心理的安全性を高めたいと考えている。今教頭を中心に、それに向けた雰囲気づくりを行っているところ。

Q：主人公として活躍できたことがある、という問いは、何かに秀でていないと主人公とは思にくいのでは。言葉を変えたらもう少しパーセントが上がるのではないか。

- A：好きなこと、得意なこと、に言葉を換えるだけでもいい。
そこから広がっていくと思う。
- Q：夏休みの学習サポート、学力向上の面から、全体の周知のみでなく、各生徒の苦手教科を実施する際に生徒をピックアップして呼びかけることはできないか。
- A：夏休み中の参加が任意の事業であり、強制ではないため難しい。声かけは工夫して行っている。
- Q：チーム担任制について、よかったと思う、困ったこと、という設問があった。一見同じことを聞いている、逆転項目の設問かとも思ったが、回答内容をみると反転していない。これはどうみるべきか。
- A：とくに変わらない、困ったことはない、という風に見ている。実際に生徒に話を聞いても、何もかわらないという返答があった。困ったことの意味として、誰に相談していいかわからない、というのは想定内。教職員からは休みが取りやすくなったという声がある。朝の会や給食など担任業務は日ごとに変えている。また、体育祭はA教諭、文化祭はB教諭など行事ごとに担当を決めて進めている。今後もよりよいものとなるよう検討しながらすすめたい。
- Q：自分の子どもが中学校入学当初は部活練習などもあり家庭学習の進め方も難しい部分があったが、放課後学習や夏休みの学習サポートを通して、現在はなんとか学習も進められるようになってきている。今回の報告などから、色々生徒のことを考えて学習サポート等行っていただいているんだと、改めて感じている。